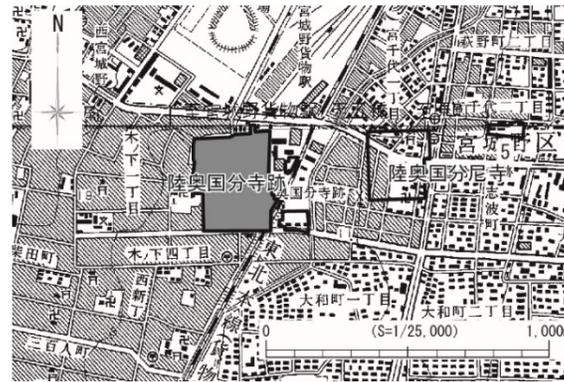


## 1 調査概要

遺跡名	陸奥国分寺跡	所在地	仙台市若林区木ノ下3丁目
調査原因	国庫補助による遺構確認調査	調査面積	東区：約147.5㎡ 西区：約30㎡
調査主体	仙台市教育委員会（担当：文化財課）	調査期間	令和6年5月～7月

## 2 陸奥国分寺跡とは

陸奥国分寺跡は天平13（741）年、聖武天皇の勅命によって鎮護国家のため全国60余国に建立された寺院のひとつで、大正11（1922）年に国史跡に指定されました。貞観11（869）年の地震によって被害を受け、大規模な改修が行われたことがわかっています。慶長12（1607）年に伊達政宗によって再興され、現在の薬師堂や仁王門が建てられました。また、東に約500m離れたところには陸奥国分尼寺が建立されました。



① 陸奥国分寺跡と周辺の遺跡

## 3 これまでの発掘調査

陸奥国分寺跡の発掘調査は、昭和30～34（1955～1959）年に寺院を構成する建物（伽藍）配置究明のため伊東信雄東北大学教授を団長とする学術調査が実施され、昭和47（1972）年以降は仙台市教育委員会による調査が行われています。

これらの調査により、南半部では南大門、中門、金堂、講堂、僧房が南北一直線に並び、中門と金堂は廻廊でつながれていることが明らかとなりました。一方、北半部では不明な部分が多く、特に寺院の大きさが不確定であり、その規模の確認が大きな課題となっていました。

そのため、令和3（2021）年から寺院北辺の確認を目的とした発掘調査を実施しています。



② 陸奥国分寺跡の復元模型  
（仙台市史編さん委員会1995『仙台市史』  
特別編2 考古資料より転載）

### ・お寺の建物

陸奥国分寺の主要な建物としては、門、金堂（仏像を安置した建物）、講堂（僧侶が読経や教義を学ぶ建物）、僧房（僧侶が日常生活を送った建物）、七重塔、経楼（経典を保管する建物）、鐘楼（鐘を突くお堂）などがあったと考えられています。また東西南北の四方は築地塀と溝によって区画されていました。



色線の部分が今回の調査で明らかに



③ 調査区位置図

### ・陸奥国分寺の長さの基準が明らかに

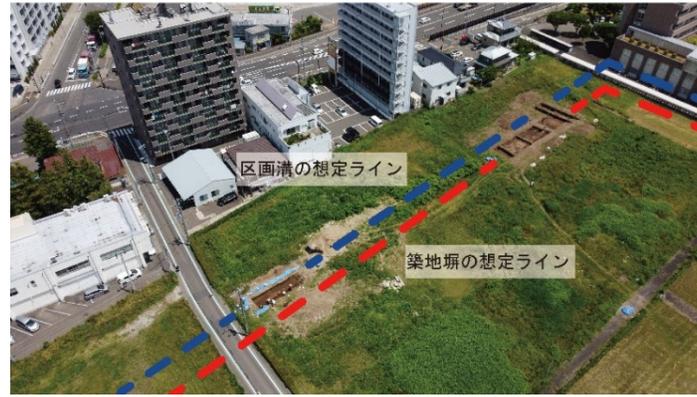
国分寺が造られた奈良時代では長さをはかる単位として「尺」がありました。「小尺」と「大尺」の2種類があり、1尺あたりの長さは小尺＝約29.6cm、大尺＝約35.5cmです。

陸奥国分寺の大きさが東西約240m、南北約270mであることから、小尺を基準に造られたと考えられます。

## 4 今回の調査成果

昨年度の調査で検出された築地塀跡の掘り込み地業をより平面的に精査し、寺院の北辺となる築地塀跡の存在を明らかにすることを目的として発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、後世の耕作（Ⅱ層）や住宅地化（Ⅰ層）により、削平されている箇所はありましたが、28.6m分の築地塀跡が検出されました（⑤）。



④ 調査区全体の様子（南西から）

### ○築地塀跡

今回の調査で検出されたのは「掘り込み地業」の部分で、掘り込み地業には精緻に土が薄く敷かれている箇所（A）と同種の土が厚く敷かれている箇所（B）がありました。それらの深さも地点により異なり、現地表より30cmから90cmまでと一定していませんでした。

築地塀の高さについては、今回の調査で明らかにできませんでしたが、一般的には2～3mはあると考えられています。

### ○溝跡

西区と東区の一部で溝跡が検出されました（⑤）。この溝跡は築地塀跡と平行し、<sup>くつきよく</sup>屈曲することなく続いていることから、築地塀とセットの区画溝であったと考えられます。

## 5 まとめ

今回発見された築地塀跡（掘り込み地業）と区画溝跡により、これまで不明であった陸奥国分寺跡の北辺が明らかとなりました。これにより寺院の規模は東西約240m（800尺）、南北約270m（900尺）となり、極めて整った形状の寺院であることが明らかとなりました。

今後の課題としては、北門の存在や築地塀の高さ、伽藍を除いた寺院の内部構造などが明らかになっていないことが挙げられます。これらの不明な点を解明するため、今後も発掘調査を継続していく必要があります。



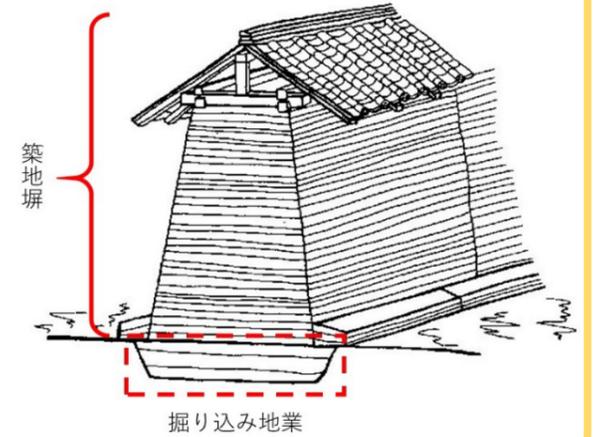
⑤ 東区一調査区の写真（上が北）

### ・築地塀とは

築地塀はいわゆる屋根を設けた土塀のことで、壁は層状に土を積み上げ、叩き締めることで薄い縞模様の断面になります（右図・写真⑦）。寺院などの格式の高い建物の威厳を示すための施設と言われています。

### ・掘り込み地業とは

築地塀が屋根などの荷重によって沈まないよう施された地盤改良工事のことです。築地塀の地下を掘り込み、敷いた土を叩き締めることを何度か繰り返すことで地盤の強化をはかりました。



築地塀と掘り込み地業の断面模式図



⑥ 東4区 掘り込み地業平面（残存範囲）



⑦ 東2区 掘り込み地業断面